

平成23年度第4回史跡小田原城跡調査・整備委員会 植栽専門部会 会議録

日 時 : 平成24年3月21日(水) 13:30～
会 場 : 小田原市立郷土文化館会議室
出席部会員 : 小出部会長、榎本部会員、小笠原部会員、杉山実部会員、鈴木志真夫部会員、鈴木崇部会員、富田部会員、宮内部会員、森谷部会員
事 務 局 : 諸星文化部長、奥津副部長
文化財課(加藤課長、大島副課長・史跡整備係長、佐々木主査、岩崎主任)、まちづくり景観課(片野副課長)、みどり公園課(今井係長・石井主査)、観光課(諏訪間専門監・二見係長)

文化財副課長 皆様こんにちは。本日はお忙しいところご出席いただき、感謝申し上げます。

ただ今から、平成23年度第4回史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会を開催する。なお、本日は石川副部会長・勝山部会員から欠席の連絡を受けている。また、部会員の皆様のほか、オブザーバーとして県教育委員会から谷口副主幹に出席いただいている。

それでは、部長からごあいさつ申し上げます。

文化部長 本日は、部会員の皆様方には、大変お忙しい中を平成23年度最後となる第4回史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会にご出席をいただき、感謝申し上げます。また、県教育委員会から谷口副主幹にもご出席をいただき、感謝申し上げます。

本日の会議では、前回に引き続き、城址公園全体の植栽管理についての作業状況や評価方法につきましてご説明させていただくとともに、御用米曲輪については発掘調査の進捗に伴う具体的な植栽の取扱いについて、さらに踏み込んだ議論をお願いしたいと考えている。

御用米曲輪については、後ほど現地視察を行っていただくが、北東土塁上のクスノキの取扱いについて、発掘調査の進捗に伴う遺構の状況をご確認いただき、さらに議論を深めていただきたい。

2月4日に開催した、御用米曲輪の現場見学会と説明会では、現地見学会に200名、説明会においても100名を超える方にご参加いただいた。その中では発掘調査で検出された遺構や現状の樹木の状況、これまでの専門部会の議論、樹木の取り扱い方針、今後の史跡整備の予定等についてご説明させていただき、多数のご意見をいただいた。専門部会等でご議論いただき定

めてきた一定の方針について、概ねご理解をいただいたと考えている。

また、3月15日には、小田原の城と緑を考える会ほか8つの団体から「絵になる小田原城づくりへの提言」と題し、国指定史跡小田原城跡の景観、環境管理についての要望書が市に提出された。いくつかの要望事項があり、城址公園の管理という面で、経済部観光課で預からせていただき、対応を検討しているところであるが、特に植栽の管理については、まさにこの専門部会の中で引き続いて議論を頂くところが要望書の指摘のところだと思う。植栽専門部会では、部会をスタートさせた当初の考え方、史跡の保全と活用、それから公園としての市民へのアメニティ、あるいは史跡と緑の共生や調和というような観点から、これまで通り植栽についての詳細な調査や議論をしていただき、これまでの議論の中では一本一本の吟味という話から、全体の管理のあり方というところへ議論が及んできたところだと思う。まさにそれが御用米曲輪の中ではより具体的な史跡調査の進捗に伴い、樹木の取り扱いについて議論をして頂いているところであり、本日もその部分のより具体的なところに議論が及ぶことになる。その中で、私どもも最終的には見定めて参りたい。引き続き議論を尽くしていただきたい。また、管理の体制については、行政内部の組織体制や人員配置の問題、職員が直営でやるべきか嘱託で管理すべきかなど、人的な組織改正の問題にまで及ぶため、そういった部分は問題意識をもって内部で検討させていただいている所である。それらについては進展があり次第、ご紹介させていただく。

本日も含め、今後につきましてもこれまで同様に議論を尽くして参りたいと考えており、皆様方にはより一層のご指導とご協力を重ねてお願い申し上げます。それでは簡単ではあるが、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

文化財副課長 次に配布資料を確認させていただく。本日の配布資料については、資料1～3までである。また、植栽専門部会の部会員名簿などを参考資料1～5として添付している。確認いただき、不足があったら申し出てほしい。

よろしいでしょうか。それでは議事に入る前に会議の公開等について説明する。前回までの部会でも説明してきたが、本日の会議も公開とし、会議録も公開の対象となる。会議録については、事務局で取りまとめた後に各部会員にご確認いただいて確定稿とする。また、傍聴人からの撮影・録音等の許可申請については、前回までは「議事進行中の撮影は、最初のみとさせていただきますが、メモをとる代わりに録音はしていただいてもかまわない。また、現地視察の際は、委員の視察に支障のない範囲とさせていただきます。」ということを決めていただいた。議事の進行は、ここから部会長にお願いするが、撮影・録音等の許可申請を本日はどうするか決めていただきたい。

部会長 前回と同じということによろしいか。

(異議なし)

前回と同様ということで。

それでは、今説明があった通りに進めさせていただくと言うことでよろしいか。そういうことでお願いします。

それでは議事に入るが、今日は大きく2つの議事があり、1つが城址公園全体の植栽管理。この間いろいろな作業が進められているが、それを改めて今日ご紹介いただきたい。今は城址公園全体の中からものを考えていこうと進めているわけで、結論を出すということではないが、いろいろな分析等を皆で共有していくことをやろうという状況と理解しております。そういうことで事務局からの報告を求める。

事務局 それでは城址公園全体の植栽管理ということで、今回は花粉分析の結果について報告させていただきたい。

まず、前回のおさらいということになるが、資料1の一枚目、「毎木調査を活かすために」をご覧頂きたい。前回1月23日開催の植栽専門部会で、城址公園内のあるべき整備像を明らかにしていく上で、植生の歴史的な変遷状況を把握する必要があるということをお話しさせていただいた。その中で2番の「作業の方法と手順」にあるように、まず過去の状況を復元する作業を現在行っている。古写真による分析については、前回一部ご紹介させていただいたが、職員で手分けして行っているのが作業の一つとして今回は花粉分析についての報告をさせていただく。以下担当から説明させていただく。

事務局 資料1の二枚目「小田原城址公園周辺の花粉分析・種子同定成果」をご覧頂きたい。今回提示させていただく試験資料は、①昭和58年に実施した銅門と馬屋曲輪の間にある二の丸住吉堀を中心とした部分と、②平成18年に栄町一丁目、小田原郵便局の南側に位置する山本内蔵邸跡検出の障子堀で実施したものの2箇所分析結果になる。なお、③御用米曲輪については、資料1の2枚目裏面にありますように、現在4遺構6点のサンプルを採取し、分析を行っているところである。こちらの成果については、もうしばらくお時間をいただきたい。

さて、分析方法ですが、素人であり報告書に記載されました内容をご紹介するだけになるが、まずは、試料を遠沈管にとり、水酸化カリウム溶液で煮沸し泥化、その後、傾斜法・臭化亜鉛により有機物の分離を行い、フッ化水素酸溶液で放置することで鉍物を除去、水洗してアセトリシス処理という花粉濃集作業を行って、グリセリン封入後、プレパラートを作成、検知するという行程で実施しているようである。

では、「(3) 分析結果にみる植生変遷」というところに沿って具体的な分析結果を紹介する。①二の丸住吉堀では、縄文時代から昭和にいたる試料の

分析を行っている。簡単にまとめると縄文時代では、スギ属が増加・優占し、イチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科とともに針葉樹林を形成していた。また、アカガシ亜属やシイノキ属ーマテバシイ属を主体とした照葉樹林やコナラ亜属・ニレ属・ケヤキ属などの落葉広葉樹林も形成されていた。低地部ではヨシ属が繁茂する湿地が存在していると推察されている。弥生時代から古墳時代については、引き続きスギ属主体とした針葉樹林、照葉樹林が成立し、低地部ではイネ科・カヤツリグサ科が生育しているため、一部水田化の兆候があると考えられている。戦国時代～江戸時代前期には、スギ属が減少し、エノキ属ームクノキ属、サイカチと想定されるマメ属が増加。ニヨウマツ類も次第に増えている様相がみられている。また、堀内では水生植物は見られず、クンショウモ属がわずかにみられるとのこと。江戸時代～昭和にかけては、クロマツを主体とするニヨウマツ類が目立ち、スギ属も安定した森林を形成していると考えられています。また、堀内ではガガブタやヒシなどの水生植物が繁茂し、明治維新後に減少するという傾向にあるようである。

次に②山本内蔵邸跡第X地点の障子堀になるが、こちらは戦国時代末期から江戸時代前期の堀なので、その時代に特定される植生となる。スギ属・マツ属が多く、モミ属・ツガ属・クマシデ属ーアサダ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・コナラ属アカガシ亜属・ニレ属ーケヤキ属・エノキ属ームクノキ属・ガマズミ属が検出されています。なお、障子堀に付随する土塁上にはスギ7本の切株が遺構として確認されているため、スギ属の花粉が多くなる傾向は考慮する必要があると考えている。草花類としては、花粉化石ではイネ科が多く、カヤツリグサ科・アカザ科ーヒユ科・ヨモギ科・キク亜科を検出している。植物珪酸体ではイネ属・ネザサ節を含むタケ亜種・ヨシ属・ススキ属を含むウシクサ属が検出されており、オモダカ科・カヤツリグサ科・ナデシコ科・タカサブロウ属などのキク科の種実も検出されている。以上のことから、明るく開けた草地があり、堀内は湿潤、人里植物に属する分類群が周囲に存在していたと想定されている。

総合的にこれらの分析結果から当時の植生を評価すると、スギ属・マツ属が多いことから、周辺環境に人の手が入った二次林が存在したことが想定されると言える。また、丘陵上にはブナ属等の落葉広葉樹林が分布し、モミ属等の針葉樹なども存在した。低地部にはアカガシ亜属等の常緑樹、早川・酒匂川等周辺にニレ属ーケヤキ属・エノキ属ームクノキ属・クマシデ属ーアサダ属等が形成されていたとの状況になると報告されている。

以上が分析結果になるが、植物の種類など事務局としても把握しきれていない部分、傾向を導き出せていない部分が多いため、これらの分析結果を基にした、当時の景観の判断、分析結果の分析については、ぜひ専門部会の部

会員の皆様にご指導いただきたいと考えている。

全体の様相を整理すると、戦国時代からスギ属やマツ属などの二次林が形成され始める状況が見られ、江戸時代になるとさらに増加する傾向がある。エノキ属・ムクノキ属・サイカチと考えられるマメ属などが部分的に確認されており、戦国時代から江戸時代に至る過程での植生の大きな変化は見られない。また、花粉は飛散距離が広いと、種実を中心に見ると、オモダカ属オモダカ科・オモダカ科・イネ科オヒシバ科・カヤツリグサ科・ナデシコ科・カタバミ属カタバミ科・オトギリソウ属オトギリソウ科・セリ科・シロネ属シソ科・キク科タカサブロウ属・キク科などが検出されており、これらの植物は比較的周辺に存在していたことが想定できる。との状況になろうかと思われる。

これまでに実施した、花粉分析・種子同定の検査結果としては以上である。花粉分析・種子同定は、発掘調査により泥質な土壌が検出されるなどの状況が生じない限り、実施することは物理的に難しい状況である。そのため、全ての曲輪で実施することは難しいと言わざるを得ないが、現在実施している御用米曲輪の分析結果を合わせると、資料1・3枚目の図1に示しましたような範囲での分析が実施できたことになる。このような調査結果を踏まえ、皆様の意見をうかがいたいと考える。

部 会 長 この点詳しい方、どなたかご意見をお持ちの方は。要は何なんだ、ということなのだが。

部 会 員 こういうことは広域の部分を対象にしてやるということに意味があり、割合に狭い範囲でやってもなかなか。

部 会 長 ここで書いてあることは、結局、傾向ということでもとめていただいたことを我々が確認をするということになるだろうと思う。要はスギ・マツが主体の二次林が広がっているってこと。その種類、比較的周辺に存在って、何の周辺になんですかね。

事 務 局 花粉ではなく、種実が出ているということで、花粉よりは実の方が飛散範囲が狭いだろう、との報告書での判断になる。

部 会 長 それはいいが、何の周辺っていうのは。

事 務 局 分析位置である。

部 会 長 分析位置。どっかの周辺ということではないのか。

事 務 局 試料を抽出した箇所周辺。

部 会 長 ①②③の周辺にこういうものがあつたという理解でいいのか。

部 会 員 こういう調査をして、分析した結果こういうものがあつた、それが分かつたということでもよろしいのではないか。時代時代によって、いろんな植物が変遷していきますから、それを受け止めるということではないか。

部 会 長 あとは御用米曲輪の調査によって、また新しいデータが出てくるということになる。

部 会 員 これらのことをお願いしたことがあるが、趣旨としては色々な方の意見の中に、例えば城址公園のお城というのは戦いの場であるから、中で植物を育てることはなかつただろうという意見があつたり、あるいはいろんな意味で、江戸時代あるいは戦国時代に、中の植生をその時代の人々がどう扱っていたのか。砂地であつたのか、植生があつたのか、そういうことが知りたいということが一つあつた。もうひとつは環境のことから考えると、お城というお堀に閉ざされた場所なので、他の地域とは違った特別な環境があつて、動植物が特別な進化とまでは言わないが、生態上の地位を占める可能性がある。そういうことを考慮して将来のことを考えていくという資料にしていきたいと思う。これだけでは難しいと思うが、過去の小田原の人々が、城址公園が位置するところの植生をどのように管理していったか、環境上のどういう地位を占めるか、まわりとの比較などから、そういう方向で検討出来ればよいと思う。

事 務 局 実は、宮内委員が花粉分析のことでご論文を書かれており、ぜひコメントをいただきたいと思う。実は前の城跡整備委員会の委員でいらっしゃった加藤晋平先生という考古学の先生が、東京都の青砥葛西城の発掘調査にかかわっておられ、そこで花粉分析をしたことがある。その中では、堀の中から箱根ヒメシヤラがでた。箱根ヒメシヤラの北限がこの辺なので、それを越えて江戸でということになると、やはり北条の家臣が葛西城の城将として赴いたときに、土地を懐かしんで持っていったのかなと、一人想像して楽しんでいくということを新聞のエッセイに書かれたことがあつた。そのように、植生環境を捉える一つの方法として活かす面もあれば、そういうちょっとイレギュラーなことから何か読みとれるということも期待できる。そういう中で、花粉分析も過去を復元するためのピースの一つとして入れさせていただいている。これが直ぐにどのように生きるか、というのはなかなか難しいが、古写真とか絵図と複合して考えていく中では一つの役割を果たすピースということで報告させていただく。

部 会 員 私は花粉分析ではなく、種子とか果実の分析をした。対象にしていたのが狭い庭園であり、花粉だと広く散じてしまうので昔の状態を推測するのは難しい。小田原城は城ということで庭園よりは広がるが、やはり花粉だと非常に広い範囲に飛んでしまう。こういうデータを取っておくのは必要だと思う。庭園もそうだが、これで何が分かるかという環境が分かる、どんな植物が生えていたか。私は樹木を対象にしていたが、種子とか果実もここに出ているように、実際草花の種や果実が出てくることが多いので、そこから直

ちに樹木の昔の姿というものを推測することは非常に難しい。その代わり何がわかったかという、庭園のこの部分が田圃だった、水田だったと。あるいは時代が変わってくると田圃の雑草が少なくなってきて畑っぽくなってきた、そんな風に環境を読み取ることができるのではないかと思う。同じようにここでも草花植物の種が出てきているので、その中から環境っていうものがどんな植生だったのか、あるいはどんな利用のされ方がされていたかということがわかると思う。これをこの通りに復元するというのは別の話になるが、基本データとすべき。

部会長 城及びその周辺のある種の環境を示す指標であるということと言えるだろう。難しいこともあり、御用米曲輪の調査もこの後のデータとして出てくる。

部会員 結果については今委員が言われた見解でいいと思う。あまり細かいことまで追求できるだけのデータがあるわけではないが、参考にはしたい。

同じように城郭の方の植栽のあり方について、戦国時代は城としては丸裸でいたんではないかという見方もあることはあります。参考のために申し上げておくと、戦国時代の城は実戦向けで、鬨ぎ合いの城取りをやる。そういう局面をふまえた軍学書には、基本的には城の周囲には植栽というか、樹木は置かないと伝えられている。ただ城の中にも樹木がなかったかどうかまでは明確に断定できない。むしろ城内には敵側からの視界を遮るためのしとみの樹木くらいは置いてあったはずだと思う。では、外側になぜ置かないかという、城攻めをする敵側が樹木を切り倒し、それを堀に埋め込んで、堀を渡って攻めてくる。つまり埋め草として使われるので、それを防ぐために樹木を置かないという説明がされてきた。これはあくまでも戦闘の激しい時代のことで、もちろん近世、江戸時代になってからも戦闘もありますけど、基本的には城下にお城の存在を誇示して見せるという、「見せる城」に大きく変換している。その流れの中では城を主体とした植栽による景観をきちんと整えていく。そこにはかなりの美意識を働かせた修景作業が行われたであろうということが考えられる。そういうような時代の流れをふまえて、整備の方向性も柔軟に考えていくほうが私はいいと思う。

部会長 ちょっと話が少し花粉から別な方向にいつてしまっているようだが。

部会員 いやいや花粉から飛び出してない。花粉のことはわかりましたけど、花粉のデータから次ぎに何ができるかということへ、次の展開のヒントを考えるための、実際的な議論をしているわけだから。

部会長 だから、ちょっと論点がずれていると。

部会委 いや、論点はずれてない。そうではなくて、先ほどお城の景観の話の中から、それにどう対応したらよいかを言っている。これから考えていく場合

には柔軟に対応して、花粉の結果にあまりとらわれるとこれからの修景作業に差し支える懸念がある。私はできるだけフリーに考えた方が良いと思う。

部 会 長 今の点はよく分かった。

部 会 員 その点だが、例えば御用米曲輪の芝生の件とか課題になってくると思う。そういう場合でもできるだけ過去のをできるだけ大事にしたい、歴史を大切にしたいという思いはある。だから、過去の御用米曲輪の場所が芝であったのか砂利であったのか、あるいは植栽があったのか、そういうことが探れば知りたい。そういうことを大切にして、現在の気持ちで修景ということではなくて、やはり過去の事を大切にしながら現在のことも考え合わせる事が大切だと思う。

部 会 長 他に意見はあるか。無ければこの件はここまでにして、次に進めたい。

今日は全体のことに关しては花粉分析の話に加えて、あと何かあるか？

事 務 局 鈴木崇部会員からご提案があると聞いている。できたらこちらの鈴木崇部会員の方からご提案をいただきたい。

部 会 長 鈴木崇部会員、何かご提案があるということだが。

部 会 員 なかなか全体の植栽管理ということで、相当いろいろな要素が絡んでいる。植栽だけのことについてという話ではない。私は以前、市民の皆さんを対象に講演会で話をしたのは、要は城址公園の植栽景観のあり方としては、やはり風情があるということ念頭において、歴史性を感じさせるあるいは地方から観光に来た人たちに、小田原城と植栽計画のバランスに感動するようなあり方が望ましい、そういうお話をした。昔からよく取られている造園的な手法として「何々八景」とか「何々十六景」とか、これは中国の詩のやり方なのでしょうが、私は植栽を考えるうえではそういう景観のポイントを作って、それに対してどういうふう利用客を誘導していくのかということ。どういうところで機能的なことを入れながら、なおかつ史跡を大事に考えて欲しいと思っている。部分的に御用米曲輪という場所だけ取上げてしまうと、とかく平面図を見るように、そのエリアだけのことしか考えないことに陥りやすい。人間はその場に立って、四方を見渡した時に御用米曲輪の所から見る天守閣方面とか、あるいは菖蒲池の方。そういう風に目が四方にいくわけだから、そのエリアだけのことというと、やはりさっき言った風情の出し方が難しくなる。この向うに何が見えるか、あるいはこの向うに何かありそうだと思うようなやり方というのが、伝統的な回遊式の日本庭園の手法として、こういう所にも通用するのではないかと思う。

部 会 長 全体がこの植栽専門部会が当面の課題として御用米曲輪を大きく取り上げてきたわけで、これまでは仕方がないというか、課題に対応するという格好で考えてきたというのは趨勢としてもそうであったと思う。この専門部会の

中でも、全体のことも考えなくてはいけないという話がこの間随分出て来ている。先ほどの部会員の話もそういう枠組みの中で考えられること、という意見だと私は思うので。もちろん御用米曲輪に関して直接的な何か決めていくことに関し、この部会として案を出していくというのも必要だが、一方で今後はむしろそういう城址公園全体の植栽管理ということ、個々の木をどうするというだけではない全体の組み立てということを考えていく。その中から植栽に関するポイントをこの会として絞り出していこう、作っていこうという流れに行った方がいいと思っている。台風によって木が傷んだ等も含め、まだ個別対応になっている気がするので、是非そっちに持って行きたいと思っている。どういう風に持って行くかは事務局の方で鈴木崇部会員と相談しながら、どういう風なところという案を作っていく、そういうこともあると思ってお話を伺った。そのような点について他にご意見が、たくさんあると思うが。

部 会 員 基本的には鈴木崇委員が言われた通りだと思う。やはり、お城としての見せ方が基本にあるので、それが生きるような景観をきちんと具体的に決めていきたい。その方向に沿ってどう修景していくのか、それはある意味クリエイティブな作業となる。その方向性の中で植栽の現状把握とか植え替えの必要性とか、新たな景観作りのための発想とか、そういった整理や選択をしていくことが具体的な段取りとして必要になると思う。ではお城をどういう風に見ていけばお城と緑の関係が美しく見えるか。その共通認識を得るために、部会員皆さんで城址全体を一緒に回って景観のポイントをきちんと確認しながら、どのような手立てが必要かという議論に持って行った方がわかりやすく、最終的には妥当な判断に納まっていくのではないかと思う。いい景観、見せ場というのはどなたが見てもだいたい決まりやすいので、それを素直に見せてあげる方向で磨きあげていく。そういうことが小田原城に来たお客様に一番喜んでもらえることであり、さらに市民にも城と緑の景色が良くなったなど、そういう実感を持ってもらえれば何より幸せなこと。景色探し、景観作りというものをこの委員会で現場検証をしながら、優先順位を選択していけば、より積極的な作業につながるのではないかと思う。

部 会 員 今、言われたように、議論をその場所場所全体の議論をいくら詰めても時間ばかりかかる。それよりは全体を今見て、このお城は少なくとも100年前の皆さんが見て素晴らしいと。50年前の皆さんが見て緑があつて素晴らしいと、今も素晴らしいという感覚は変わらない。今問題になっているのは、ビューポイントがはっきりしないという指摘がかなり行われているように聞いているが、今現在どういう所から見てどう見せたいのか。それをしっかり議論した上で、本来の植生はこうだったああだったというのは当然あるが、

現実的な問題としてそのまま残していいのか、もう少し間引いていくのか、もう少し小さくしていいのか、あるいは新たに、ここは史跡ですから植えられないというお話はありますが育成していくのがいいのか。そういう逆の方向からいかないと議論をいくらしてもなかなか最終点に到達しないんじゃないかと思う。それは事務局サイドで、どういう方法がいいのか方法論として検討していただきたいと思う。

部 会 員 全体から考えていきたいというのは私もまったく同じ考えである。実は個人的に愛媛県の大洲城で天守閣復元にかかっている植栽整備の調査、整備が行われたということで実際に見にいってお話を伺ってきた。そこでやはり今話が出ていたような、まず全体の計画というのが最初に提示されていた。空間整備計画と書いてありましたけど簡単に言うとゾーニングということになる。お城として歴史性を担保するような復元整備の空間というのが中心にあって、その一部にはやはり緑としての自然環境を守っていくための空間を設定してあるとか、あるいは歴史を案内するような施設、あるいは本当に都市公園として公園の機能を配置する、そんな風にゾーニング計画が行われているというのが、それがまず市民の方に提示されていたということが重要だと思った。それから、部分部分の話になると、やはりここで前から話しているように、ビューポイントをどこからどういう風に見るか、その辺も同時に検討されていた。さらに面白かったのは、例えばあるビューポイント、橋の上から、今現在木がこんな風に覆っているからお城がこんな風に見えるという写真を季節ごとに撮ったりしている。天守閣は平成16年に復元されているから、まだ天守閣ができる前なので、天守閣の模型の写真を撮って、じゃあこの木をどかしたら天守閣はこんな風に見えるよというシミュレーション写真を作っていた。これも前この委員会で検討されていたような気もするが、費用が莫大にかかって大変だから難しいという話をしていたと思うが、意外と模型の写真と合成させるとそんなに大変ではなかったようで、今現在木が覆って天守閣が見えないと、この木を剪定したり伐採したりすることでお城がこんな風に見えるようになるということが、あるいはお城の外がこんな風に見えるようになるということが市民の方にわかりやすいのではないかと思う。あるいは伐採・剪定するにあたって、切ってしまった、失敗だったというわけにいかないで、そういうシミュレーションはやってみる価値はある。ちなみに、そういったことをやるとどれくらいの金額がかかるのかというと、報告書では調査も含めて、ゾーンニングするにあたって外部委託で設定しますが、それが基本の状態になると思うが、同じような調査が大津城でも行われており、そういう基本調査からシミュレーションまで含めて300万円くらいかかる。

部 会 長 最近はシミュレーションと言うか、だいぶ世の中が変わってきて、Google Earthで、インターネットでかなりある姿が見える。画面に出てくるというのが、ごく普通にできるようになりつつある。小田原のそういった部分がどこまでGoogle Earth上にできているかは調べなくてはいけない。方法はあると思うし、今委員がおっしゃたようなところから物を考えていかないと、毎回そういうものが足りないねということになりそうなので、そういう方向に行きたいと私は思う。

それから、文化庁は史跡のガイドライン制度を出しているが、国指定史跡で木を植えられないというのは、実は私はちょっと違うのではないかと思う。相応しいかどうかということによって、植えるということも含めて考えていかないといけないと思う。もしそれが小田原城にとって相応しいなら、むしろ文化庁にこういうことをやりたいという方向で伝えていくべきだと思う。何となく文化庁の考え方に従って植栽管理を日々やっていくというのは誤解もあり、環境というか緑量そのものを管理するという意味での色々な形の方法を考えていかないといけない。是非そういう方向で提案をまとめていきたい。

部 会 員 初回から同じことを繰り返しているが、この部会では最終的に例えば明治神宮のような管理計画をきちんと作って、あとはご担当の方をお願いするというような方向が望ましいと思う。その中での管理だが、皆さん造園の専門家で造園的な手法で管理するという考えもあるが、今の状態でも手が足りていない。今後予算が足りなくなると見込まれる中で、どれだけ手がかけられるのかわからない。とすれば、もうちょっと自然的な手法、あるいは里山管理的な人間的な管理の手法、造園の管理のもう一つ上に足すようなゾーンを作って考えて、造園的な方法、園芸的な手法、都市緑化的な方法、一つ上の段階でゾーニングをしてそれぞれの管理計画をお示しして、それに従って代々管理していくのがいいのではないかと思う。

部 会 員 ぎりぎり今朝お願いして、印刷資料を三点用意した。これを皆さんにお配りしていいか？

今各部会員からも小田原城全体のことに話を移した方が良くというご意見と、城址公園の中でも観光客の方に喜んでもらえるようなビューポイントをいくつか皆で考えて設計していく方がいいという意見があった。私も同感で、一枚目の写真がビューポイントの一つである。参考として合成写真を作ってみた。こういったものでビューポイントをいくつか合成写真等で見比べて検討しながら、どうしたらいいか考えていったらいいのではないかと、一つのサンプルとして作ってみた。二枚目は、樹木についての色々な問題は小田原城に限らず、姫路城等いろいろなお城でも問題が起きている。こういった他

のお城で進められている計画や、こういったものを参考にしていったらいいのではないかと思う。三枚目は、小田原城全体の植栽管理ということになると、なかなか小田原城址公園は復元が思うように進んでいない部分もあり、復元された将来像がなかなか頭に浮かばない人が多い。こういったお城の本を見ると、江戸時代の復元イメージ図があり、そこからコピーしてみたが、こういったものを参考にしながら、どこに櫓があってどこにお堀があって。だったら、十年後二十年後のビューポイントはここからこういった風に覗いてこう見たらいいのかと。将来を見据えた計画とか植栽管理を、大きな目で見て参考資料にさせていただきたいと思ってコピーさせていただいた。

部会長 他に。

部会員 さっき、史跡に植物が植えられないというような言い方がされていたが、そんなことはない。城址景観を高める適切な修景上の作業なら、それなりに可能な方法はある。それは誤解のないようにお願いしたい。

それから今このような城郭復元想定図が配られたが、これは遺構を復元するとこのような格好になるという参考であって、このような図を不用意に配ると、また植栽もこの通りになるのか、こんな丸裸になるのかという言いがかりを付けられかねない。誤解のないよう説明をしっかりとしてもらわないと困る。つまり二の丸御殿にしても御用米曲輪の米蔵にしてもこの通りに復元できるかというとなかなか難しく、そんなわけには簡単にはいかない。復元の手前での修景もあるわけで、それならどうすればどのようにしていけばいいのか。これから手探りの作業で決めていかなければならない。ただ、堀と曲輪取りの輪郭はこれを参考にして考えていただく。その上で庭園や公園としての見せ方はどのように可能なのか、そこからはある程度クリエイティブな作業になっていくと思う。本来の昔の姿が復元されれば一番いいのかもしれないが、それとてはそう簡単にはいかない。そこまでいかない場合は今日的な修景としてどうしたらいいか、最終的にどのような公園整備を目指すことができるのか、それが現在の我々に課せられた課題であろう。そういう受け止め方をさせていただいた方がいいであろう。

部会員 スタートが北東土塁のことだったので、なかなか発言がしにくかったが、こういう話が出てきたので。今ビューポイントの話がされたが、私も最初から話しているように、今のビューポイントというのは天守閣をいかに見渡せるかということだと思う。それも大事だと思うが、ちょっと視線を変えてもう一つ、本丸の高台から周りを見回して、展望がどう開けているか。これは小田原図書館の上をずっと相模灘を見渡した景色。そうすると本来箱根山からずっと相模灘が見える。ところが今見ると何も見えない。天守閣の展望台に上がれば360度展望が楽しめるが、観光客の方は全員が展望台に上られ

るわけではない。車椅子の方もいらっしゃる。そういう人も本丸から相模灘が見える位置がある。根こそぎ取ってくださいとは言わないが、小田原市立図書館の裏の大木を屋根の辺りまで整理してもらおうと、相模灘が見える。そうするとまた一つの小田原城の楽しみが増える。だから逆に天守閣を見られるようにすることと、本丸の高台から周囲の展望が開けるようにする。この二つの方向で是非検討していただきたい。

部 会 長 直接の参考ではないですが、私が倉敷で見たのは、昔瀬戸大橋が出来る時、皆で瀬戸大橋を見ようと言って山の上に眺望点を作って、そこにたくさん人が来て楽しいなという所があった。ずっと放っておくと、眺望のポイントとして整備したところも、海側に木がありまして、それが育ってくる。そうするとせっかくの眺望点が、眺望点ではなくなる。木がある程度管理されていれば維持できる。小田原城でも同じです。伸び放題になると折角の風景がなくなっていく。そういうことをどう考えていけばいいか、話した覚えがある。実はそれは自然公園の区域の中で、樹木を触ることに一定のルールがあつて、切るといっても色々と面倒な手続きがあつて、そう簡単にはできない。けどどいったい何のために、そんなことを考えたのかという壁にぶつかったことがある。そういうことをいかにうまく維持し、全体の環境としてまとめていくかということが大事なのだらうと思う。

部 会 員 先ほど「風情のある」というお話があつたが、やはり「小田原の城址公園にもう一回行ってみたい」とそういう形でやってもらいたい。今かなり眺望ということで問題点が出されたが、この整備計画は、いわゆる江戸末期・幕末の状態に再現する方向で今検討されている。考えてみるとお城だけ幕末・江戸末期の状態に再現した場合、幕末・江戸末期のお城を取り巻いていたのは平屋建ての武家屋敷、大きな庭を抱え、周りに緑が一杯ある中のお城。ところが現在、お城の中だけ幕末みたいにした場合、周りはコンクリートの13階建てのマンションが建っている。こういう状況の中でお城全体のビジョンをどうしたらいいかという観点も加えなければいけない。我々はこの城址公園が国の史跡指定地であることも事実だが、都市公園でもある。あるいは県の緑の風致地区でもある。何しろ小田原の中心街にこれだけまとまった緑があるところだという点は、いろんな整備の観点からもきちんと押さえておかななくてはならない点だと思う。確かに本丸から相模湾を望みたい。いい相模湾が見えればいいのですが、半分くらいはマンションで、こんな景色ならば見ない方がいいということもあり得るだらうと思う。ですから、例えば御用米曲輪の北東側土塁の上のクスノキを、土塁を整備するために全部切った場合には、まわりのコンクリートの建物がむき出しに見える。それが小田原にとっていいかどうか、そういう観点も考えないといけないだらうと思う。例

えば馬出門をやった、これについて市民の意見は私の感覚では、たぶん半々くらいなんじゃないかと思う。馬出門はやって、大変良くなったという感想を持つ人もかなりいれば、あそこにはマツやサクラが一杯あったのに、なぜほとんど無くなったのか。それなら馬出門をやる必要はなかったのではないかという意見も半分くらいあるだろうと思う。そういう点では、最終的にはゾーンニングをしてここはこのように整備したいと。一部、二重櫓を再建すると、「そうすればこの木は切らざるを得ません」というようなことで、いわゆる整備をする前に原案を市民に示して賛否を問う、こういう作業を丁寧にやっていながら整備をせざるを得ないだろうと私は考える。

部会長 それは今も進んでいるようなポイントもある。それからもう一つ、今の話の中では見たくないものは隠すのも一つの手法かという気も正直する。

部会員 先ほど言った「風情」などというのは漠然としたものではあるが、そういう造園の何を見せて何を隠すか。そういうことを常に計画する上では考えないといけない問題。折角良い庭を造っても目の前に煙突やら電信柱が見えたら風情のあるものは出でこない。そういう意味でも、隠すものと見せたいものをはっきりさせて、考えて、その上で目隠しということで植栽が使われる。植栽だけでは高さが足りない場合は盛土をしてその上に植えるというような手法がある。もう一つ見せ方の手法、丸見えで明らかにドーンと見せるやり方と、その前に少し両側に絞った植栽、あるいは門みたいなものの中に、構造物の中に額縁を作って見せる。樹冠、幹を下枝がなく幹越しに見せる方法、場所場所に沿って方法を判断する。それには新しく植えなければならない場合もあるし、今ある木をうまく間引きして対象物が幹越しに見えるようにする。そういうところで風情が出てくる。細かい話ですけどそういう手法。

部会員 先ほどのお話にもあったが、昔お城として機能していた頃の町には緑があり、その中でのお城ということであったが、その通りだと思う。前から思っていたことは、このお城の緑は小田原市街、東海道線の右側の中でまとまった緑としては町中で唯一。その辺がお城のこともそうだが、町の緑ということがそもそもあるのではないか。ここは歴史性を重視、尊重する公園であるが、小田原の市街地のまとまった緑がないことで、やはり市民の方はここに抛り所を求めてしまう。そういうことがあって両方を詰め込まれてしまっている。そういうことであれば城址の整備の考え方もそうだが、50年100年というスパンの中で、町の緑というものも、そっちで少し緑を失ってしまうのであれば、別の所で新しい緑を創出していくということも並行して考えていく必要がある。それをこの部会で考えていくことなのかどうかというのはあるが、そう感じた。

あと一点、これは単純な話。先ほど提示していただいた合成資料、どうい

う風に作られたのかと。具体的に教えていただきたい。伐採した後の写真と
いうのは。

部 会 長 これはコンピューターで、グラフィックで最近は比較的簡単に。消しまし
て、別の樹木の写真を別のレイアウトにはめ込む。極端に難しい方法ではな
い。昔は大変だったが。

部 会 員 先ほどのビューポイント的な発想というのは大切。城を鑑賞するというか、
お城に来られる方はすべてが学術的な鑑賞目的で来られるのではなくて、む
しろ城の持つ情緒とか漠然とした概念というような、そういうものもかなり
重要な要素をもっているだろうと私は思っている。何回か前の委員会の時も
話したと思うが、今結構皆様の中でも話題になっている城全体の植物景観、
植栽が必要になる。例えば馬屋曲輪・馬出門の修復は、かつては縄張りは復
元する、ただし上屋については対象外というような考え方で城址整備が進ん
でいた。しかしここ数年見てみると、かなり上屋の方にも関心が行っている。
例えば、馬屋曲輪の角の二層櫓、これも復元したいと。ただ、そこまで直さ
なきゃいけないのかと。そういうことになってくると、30年近い昔に城跡
調査整備委員会が出した基本計画の考え方は、今とはだいぶ違ってきてい
るのではないか。そういうものが全部見えてこない、今の城跡の周りを歩い
て、ビューポイントを設定しようと思っても、これは長期的展望をもって城
跡整備、史跡整備の方も分かっていないと難しい部分があるのではないかと
思う。5年経ったら一つ櫓ができたとか言うなら、早く苗を植える、木を伐
採する、いろんな考え方が出てくる。できれば、これも前に要望したことだ
が、現在の基本計画的なものも行政の方からはっきりとマニュアルを我々に
提示してもらって、そして先見的な視野で考えなくてはいけない。

もう一つは、これは市への苦言だが、樹木の管理を経常的にやっていたら、
こんなに大きな問題は起こらなかった。私が記憶している範囲でも、かつて、
常盤橋の下に浮浪者が住み着いてしまうようなことがあって、これは困る。
これは樹木が大きくなってしまったからこんなことが起きる、少し伐採して
くれと言って伐採をしてもらった。その時くらいしか、樹木の剪定とか枝下
しをした記憶がない。あとは緊急で倒れたことはあったが。木は当然大き
くなるのだから、枝下しをしたり、間引いたりするのは当然のこと。日頃から
そういう関心を持って管理をするようにしていただきたいと思う。

部 会 長 時間の関係もあり、この後現地視察もあるので、簡単なまとめをさせてい
ただく。

部 会 員 一点だけ、ここで言うておいた方がいいと思いますが、皆さん木をいじる
ということを考えるが、本当はここに動植物の委員がいてもおかしくない。
木を切られてどうこう、木のことだけ考えて、虫とか動物のことをどうして

考えないのかという方もいると思う。でも、そういうことは実は人にとっても重要なので、そういう考え方を尊重するということが人間にとっても住みやすく、潤いのある公園になるということなので、そういう視点をどこかに持っていたきたい。

事務局 事務局から差し出がましいが、事務局としてはこの部会の中で議論され、ゾーニングなどをどういう風にして行こうという形で示していく必要があると感じた。そうした中で、ゾーニング、このエリアについてはどういう所にしていったら、それを組み合わせてどういう風情のあるお城全体のイメージを作っていくのかということや、それをどういう風に決めていくのか。そういうところで、まずは過去の状況と現在の状況と比較してみましようというものを継続して作っているところです。そういうところの作業を出せば、皆さんの議論が続けてやっていただけるのではと思うが、申し訳なく思う。

そういう中でゾーニングというようなところ、それぞれここについてはこういうイメージでというところを具体的にやっていくとなると、どういうところから資料にして共通認識の上で議論していくかということも必要だと思うが、時間がかかってしまうということもある。そうした中で、通常の管理の中でも、もう少し風情のある剪定など、管理の中で少し工夫をしてみましようかというご提案をいただいている。そのような所で提案を出していただいた。できれば本丸広場あたり、御用米曲輪の方がだいぶ整理されてきたので、剪定という範囲の中でどういった景観が作れていくのかといったところを、専門の部会員の方からのご指導をいただきながら、来年度の城址公園の管理の中で少し取り組ませていただいて、その結果をみながら皆さんに全体を見てご意見をいただいているということができないかという趣旨で、発言をいただいた。できれば、その辺をご了解いただけるか諮っていたきたい。

部会長 私の方で、今日の話少し整理すると、全体像を描きより良い整備の姿を求めその中で植栽のことを考えようというのが、この間ずっと言ってきたが、直面する御用米曲輪のことがあり、なかなかそこまで及ばないところがあってなかなか次に行けていない。そのため、各部会員が多少イライラし始めているということだと思う。

ですから、鈴木崇部会員の提案をどのように受け止めてどういう風にしていくかということも事務局で相談していただきたい。また、全体の流れの中で毎木調査があつて、その関連の作業もいろいろされていると思うが、それもきちんと全体を考えるためにということでまとめて、来年度報告していただきたい。そういうさまざまな作業をどのように組立ててこの植栽部会のまとめにしていくか、見取り図のようなものをそろそろ作成をしていただいた

と方がいいと思う。皆さんのご意見を個別にでも頂きながら、私も相談に乗りますが、そういう方向に来年度の植栽専門部会を進めていきたいし、事務局の方に強くお願いしたい。

一方では、整備基本構想の検討も始まるが、植栽専門部会では植栽専門部会らしい分析を積み上げていきたい。事務局には各部会員の提案を聞き取っていただき、それをまとめていく作業を全体で進めていった方が良い。要はポイントだけははっきりしたけれど、皆少しずつ進んでいないため、それを進めるところにこの部会の最大の課題がある気がする。そういうことで見取り図を作っていただきたい。個々の部分は相談していただいて結構ですから、そういうことにさせていただいて、進めたいと思う。

時間の関係で、2の「御用米曲輪の整備について」に移りたいと思う。

事務局 それでは「御用米曲輪の土塁上のクスノキの取り扱いについて」前回に引き続き検討いただきたいと思う。

最初に前回のおさらいということで、資料2の一枚目「北東土塁のクスノキの取扱いについて」(案)を参照されたい。この資料については前回お示ししているが、部会員の意見を踏まえ少し手直しをした。最初の1と次の2は修正を加えていないが、次の「3、クスノキの取り扱いを決める手順」については修正を加えてより詳細なものとした。また、「4、遺構への影響が大きいクスノキの選定方法」については、②とある「遺構の遺存状況」のところ「2、比較的良好に保存」というものに括弧書きで捕捉を加えた。と言うのは、非常によく残っているものと、ほとんど残っていないもの間の幅が非常に広い。そうすると「比較的良好に遺存」という言葉はちょっと偏っている。そのため捕捉をさせていただいた。なお5番目は、生育が不良なクスノキの剪定方法については、事務局に専門の者がいないということで保留させていただいていたが、これについては特に意見がなかった。たとえば序列をつけるとか、これはいい、これは減らす、のような作業はしていない。そのままにしてある。この「北東土塁クスノキの取り扱い方針(案)」につきましては、ここで特にご意見がなければ今回の専門部会でご承認をいただきたい。ただ、現地を見ての議論もあると思うので、この部会の最後までにご承認いただきたい。

次に一枚めくりA4横長の表について説明したい。これは、いま説明した取り扱い方針の中で示したクスノキを観察する要素を横軸に取り、表の形にまとめたものである。縦軸には北東土塁上のクスノキすべてをリスト化してある。番号は以前お配りした毎木調査の番号と対応する。後ろにつけた図とも対応する。なお、取り扱い方針では挙げられていない、それ以外の要素もあるかもしれないので、これにつきましても加味できるように、少し広く記

入欄をとってある。一番右は、例えばこれは剪定した方がいいのではないか、これは伐採はやむを得ないのではないか、といった取り扱いを記入していただく欄。蔵などの遺跡・遺構の類型については事務局で先に決めさせていただいている。また土塁上の最も東側にある蔵3とした遺構については、昨年度調査を実施したものであり、現状で遺構の状況を見ることはできない。これについても遺構の遺存状況、遺構との関係についての欄は事務局側で記入させていただいた。この表をこれから各部会員で現地にお持ちいただき、事務局の説明を聞きながら、ご自身の判断をご記入いただきたい。今日の部会の最後にご提出いただければと思う。これに基づき、次回事務局で取り扱い案を複数考えさせていただき、提示させていただくことで、これをもとに最終的な取り扱いを決めていただきたい。

さらに一枚おめくりいただいてA3片袖折りの資料をご覧いただきたい。こちらも前回提示させていただいた資料だが、蔵の遺構の存在する位置を遺構調査の結果に基づいて修正させていただいている。参考までに絵図に基づく推定による前回お示しした蔵の位置を破線で示してある。以上の変更点があることをご承知いただきたい。

なお平成24年度の御用米曲輪整備事業につきましては、予算上の都合などもあり、平場部分の発掘調査を優先的に行うことになった。こういった事情もあり、直ちに土塁の整備のためのクスノキの取り扱いを決めるというのではなく、少し時間的な余裕ができたということである。このため、今日ここで直ちに結論を出すというのではなく、状況の認識を部会員の皆さんと事務局とで共有した上で十分にご議論いただきたいと思う。以上を踏まえ、これから担当による説明と合わせ、現地の状況を見ていただきたいと思う。

部会長 現地に行くまでに詰めておきたいことはあるのか。全体としては結論はなくてもいい、ただ方針案の一部を少し変えているので、これは専門部会として承認して欲しい。その点は今説明があった通りだが、いかがか。

部会員 とりあえず、現地を見てからに。

部会長 今日は、土塁上の遺構への影響の部分を主に各部会員の評価、ランキング、というか、それを決めて欲しいということのようなので、その作業に入ろう。

部会員 表の見方で、一番左横にABCと入っているのはどういう意味か。

事務局 お配りした資料2の一枚目、取り扱い方針のところの裏側に「4、遺構への影響の大きいクスノキの選定方法」というのがあるが、その中で①番。これは遺構の種類で、Aが蔵の跡、Bが土塁上のそれ以外の遺構、例えば水路など、Cは土塁の版築遺構、Eはそれ以外ということで、各々のクスノキがこういう遺構の上に立っているということを示している。

部会長 それについては事務局であらかじめ入れてある。ですから、②と③につい

て45番から52番までは事務局の方で入れてあるが、それ以外の部分について、何を入れるべきか現地で実際に見て各部会員に数字ないし記号を入れて欲しいというのが事務局からの提示です。

そんなに差が出るのか？と思わなくもないが、実際には事務局の方でなかなか難しいこともあると考えているのかもしれない。現地に行って実際にどうかということを各自が判断する。まず現地に行って作業をしよう。

- 部 会 員 平面図の蔵の位置が二重線になっているのは基礎ということか。
- 事 務 局 A3の折り込みの右上に写真が付けてある。二重線は、外側の線が大きな石の石列、内側に集石の布基礎状の基礎があるので、内側の線は布基礎状の基礎の内側のラインを表している。太い二重線の中が蔵の基礎遺構の範囲と捉えている。右上写真の太い横線が大きな石列の線、下の方の少し細かい石が出たところの内側が細い線。
- 部 会 長 基礎の幅を示しているという理解でいいか。
- 事 務 局 その通り。
- 部 会 員 細かい石は石畳だったのか。
- 事 務 局 布基礎と考えている。
- 部 会 員 布基礎というのは
- 事 務 局 手前の玉石の充填されている範囲。溝状の掘り込みの中に玉石を充填して根固めした基礎のことである。大きな切石を安定して積むための基礎とっていただければ良い。実際現地で見たい。
- 部 会 員 ちょっと判りにくいですが、②③を記入するというのは、どのように入れるのか、見方が判らない。
- 部 会 長 同感であるが、現地で現物を見た方が良い。今ここで話していてもわからない。
- 事 務 局 では、資料2をお持ちください。記入いただく用紙は別途お渡しする。

【御用米曲輪現地確認】

- 事 務 局 では、御用米曲輪で進めている発掘調査の進捗状況と、樹木のことについて説明する。はじめに、御用米曲輪については、前回専門部会でご承認いただいた樹木の伐採が済み、現況のような状況となっている。そのうち、ツバキ3本(279・280・283・284)については、今後の移植場所選定を考慮し、発掘調査で発生した土山に仮設した状態となっている。また、2月29日の降雪により、G01トベラ、G361スタジイは幹元より折れたため除木した。

では、現地の状況を説明する。先ほども説明した北東土塁上の遺構の検出状況を中心にご覧いただきたい。

まず、こちらは「蔵3」とした、北東土塁上東端の蔵跡になる。昨年度調査を行ったので、現況で遺構とクスノキの関係をご覧いただくことはできない。しかし、縄を張って遺構の位置を示しているのので、参照にされたい。

45・46・51・52・59は蔵の基礎と考えられる築石列、集石列と濃密に絡んでおり、47は隣接している状況になる。なお、こちらでは石組水路が検出されているが、85は隣接して絡み合っている。

続いて「蔵2」とした北東土塁上中央の蔵。こちらは、石列に88・90・92、集石列が86・87・89・91と絡んでいる。93は隣接している状況である。なお、94は「蔵2」「蔵1」の間をつなぐ土塀基礎と隣接している。

続いて、北東土塁西端の「蔵1」。こちら95・96・99・100・101が蔵の基礎と考えられる集石と絡んでいる。

以上が発掘調査成果による北東土塁上の遺構検出状況とクスノキの概要になる。

事務局 それでは、一番東の25番のクスノキから見ていく。意見を出し合って決めるので、部会員の先生方がなるべく前に集まるような形で。傍聴の方は少し距離をおいてご覧いただきたい。

ただいま25番の木の話をさせていただく。この木につきましては、下は調査しておりませんので、遺構の関係のことは特に記入できないが、クスノキの生育状態については専門の先生方のご意見をいただきたい。いま、いただいた意見では、このクスノキは良好な生育状況であるとのこと。ご意見があれば、その他の要素のところに書き込んでいただきたい。

事務局 次は40・41番になる。北側から40・41番である。40・41・42・43・44については、いずれも現況で遺構との関係は確認できていない。もし、コメントがあるようならおっしゃっていただきたい。まず40番。

部会員 二本で一本のような木だ。

部会員 こっちは両方とも枝がない

部会員 下側は劣勢木ということで、そのうちダメになる。

部会員 葉っぱの密度がわるい。

部会員 このままやると時間がかかってしまう。

部会員 ゆっくりやらないと・・・

事務局 まずは44番までお願いしたい。

部会員 45番から蔵にかかるのか。

事務局 皆さん、44番までよろしいか。

事務局 南側については、一部壊されている状況は確認されているが、木の下は調査できておりませんので、詳細は不明です。クスノキが遺構にかみついている

る状況は見えていますので、あるだろうなという状況が想定できる。

部会長 遺構状況は「2」で、遺構と根の関係は「ア」。「ア」というのは、密着している、絡んでいる。それはその通りだ。

事務局 続きまして46番。こちらも45番と同様な状況。枯れ落ちている枝は、この前の雪で落ちた枝。

事務局 47番。47番は、ダイレクトに二本の紐の中には入っていないが、1/2程度が入っているため、「ウ」という評価。

事務局 48・49番。48番も蔵に噛んでいるが、根の張り方が1/2以下ということで「ウ」としている。49番も同様。47・48・49番よろしいか。

部会員 お隣がしっかりしてるから、なくても大丈夫。

部会長 珍しい木だ。

事務局 50番になります。蔵の中にはなるが、集石の上には乗らない。おそらくこのまま、根が入っているだろうと考える。

部会員 両側根が入っているだろう。

部会員 これは遺跡も何もあったものじゃない。だから、切って自然消滅。

事務局 51・52です。

部会員 51はちょっと…。向こうに倒れそう。

部会員 これは景観を考えながらやるしかない。

事務局 53・54・55。

部会員 全部の項目はできない。

事務局 56番まで願する。

部会長 遺構との関係は？

事務局 ぎりぎりここで土塁が曲がる場所。

事務局 56番までよろしいか。

部会員 前に傾いている。

事務局 元々は、青い紐のところまでは、土があった。今は盛土して土塁の本来のラインを出したところ。

事務局 56番までよろしいでしょうか。57・58番は蔵の上には乗らないが、「蔵3」の角から塀が伸びるとすると、ちょうどこの上に乗る。まだ検出できていないが、怪しい。

事務局 59番は蔵の中になる。59番までお願いしたい。

事務局 85番。 は遺構を検出した状況になっていますので、 と玉石の絡みとも がわかっていただけると 85・86 です。 が出てて 今 課長が入っている中が外。こちらについては縁辺部の石は壊されていますが、こちら側の布基礎は残っている。

事務局 87が南側。集石・布基礎にかんでいるところ。88が、本来あるはずの

外側のラインと、南側の布基礎のラインのど真ん中に。恐らく、土塁としての、名残があるうちに植えられたため、真ん中に乗ってしまう。

部 会 員 まともにあつたら、掘らなきゃしょうがないんじゃないの？

部 会 員 残すんだつたら、しばらく残るんだつたら、そのままにして。

事 務 局 89・90・91。

部 会 員 これは「ア」？

事 務 局 遺構の真上になりますので、この白の線の間が布基礎状の遺構になりますので。あちらでいうと、少なくとも半分以上かかっている。

事 務 局 91・92・93になる。この線から南側は、この間まで野球場で削られて、なかった部分。個々の板を張っていたが土をかぶせまして、それを外した状況。土塁のラインは、遺構で出てきたラインに合わせて土を盛ってある。

事 務 局 この前、二棟目「蔵2」の位置になります。ここで真ん中の蔵は終わる。それでこちらの石からが三棟目。「蔵1」とした蔵の始まり。

事 務 局 94・95・96・97番。

事 務 局 続いて98・99番。最後に100・101番です。

事 務 局 ご覧いただいたら、お戻りいただきたい。

部 会 員 何の知識がない人が、この辺に植えようなんてやると、こんな変な間隔では植えない。

【会議室にもどって】

部 会 長 (2) 御用米曲輪整備について、今作業を現地でしていただいた。各委員の評価を提出していただき、それを事務局で取りまとめていただくことにする。生育状況の欄があるが、それについては、私自身は緑の専門家にお任せしたい。その専門委員の意向でいいと思う。それ以外の委員の方は、遺構との関連についての評価の記述をしていく。逆に言えばその欄は必ず入れておくようお願いしたい。

話を今回の検討に戻すと、「北東土塁のクスノキの取り扱い方針」は資料の(2)であるが、これについては多少変更しなくてはいけないという話があり、今日の段階で承認をいただきたいというお話がある。ただ評価のABC、(ア)(イ)(ウ)に関してであり、結果そのものではない。このあたりの議論はして、結論は出さずに事務局で集計していただき、今後この会で最終的にどう扱うかということを決める。事務局では、今日の段階でなるべく集めたいということだ。ちょっと待て、という方は。少し時間を必要とするような。

部 会 員 少し検討したい。「取り扱い方針」は基本的にはこれで結構なのだが、この中で公園の樹木として最も大事な評価点。公園の樹木としての樹形、美し

さというものが、果たしてどう評価されるか、この視点が「取り扱い方針」から完全に抜け落ちている。個人差はあると思うが、残すのであれば、公園の木として適正であるのかどうかという視点を判断項目に入れておけば、ある程度の評価点は出せると思う。そういう項目は作って入れて欲しい。

部 会 長 それはわかる。そうすると、この表の中で「その他の要素」という欄があるが、そこに加えるべき項目があるのではないかという理解でいいか。

部 会 員 そういう理解でもいい。共通認識を持ってもらえるのであれば。

部 会 長 というご意見があるが。皆様いかがか。

部 会 員 今おっしゃられたように、個々の単木の状況と、群として成り立っているところもある。その辺を「その他の要素」の中に、いろんな条件がここに入るのではないかと思う。それともう一つは、今日の時間では全部正確に記入するというのは、無理だと思う。

部 会 長 私も西側の方、こちらから行って奥の方。あの辺は遺構との関連を評価すると全同じ。逆に一本一本見ていくよりは少し引いて、遠目から見た方がいろんな意味で評価しやすいという印象も受けた。こういう点も必要だという、まさに方針案に関して、遺構への評価が大きいクスノキ以外に、いろんな観点がある、ということを決めた方が良い。その中で、事務局も示されていた「生育が不良なクスノキの選定方法」、資料で言えば資料2の5のところに列挙されて書いてある案がある。カッコがあり「生育が不良のクスノキの選定方法」。以下の観点で生育が不良かどうか観察する、といういくつかの項目が書いてある。

部 会 員 根本的な問題だが、ここに書いてあるものだと、林業なんかで言う、優良木選定みたいな形で、最終的には密度を一定にしていくことを目指す、あそここの場所は元通り木が育っていくという考え方になってしまう。場合によっては遺構のことを考えて切ってしまう、ある程度形を作っていくという考え方も出てくる。このままだと密度・サイズを一定にして、また同じような林を作る、というようになると思うが。

事 務 局 その点については前回の段階で、ご議論をいただきましたかったところだ。今ご覧いただいている資料のオモテ側のところで、どういうクスノキ像を目指すのかというのをまず出して、それに向かって「遺構の保護を考えながら、クスノキのことも考えるという組み立てにさせて下さい」と、そういうお話をしてきた。そのところはもし変更するというのであれば、またこの部分についての議論が必要になる。ただそこで時間をかけているよりは、むしろ部会員の皆さんがこの表をお出しいただく中で、付帯意見みたいな形で、例えば今おっしゃったような「均等に抜いて密度を将来戻す」というようにすると、「結局は・・・」、という考え方もある。だとすると、逆に粗密は現れ、

遺構の保護をある程度尊重する方にちょっと振れるが、そういうやり方でクスノキの図を作るということもありえないかというような付帯意見などをお付けいただいております。正直申し上げますと予想以上に遺構との絡み具合が激しい。だからと言って皆伐になってしまうと、前回議論した「取り扱いの方針」そのものが成り立たなくなってしまう。何を指すのかをにらみながらも、今日ご覧いただいた状況に合わせてこういうのがベストというか現在の、現代に生きる我々にとって最も良い案になるのではないかというのを出していかざるを得ない。ここからは応用問題で皆さんの知恵、我々もだいが、絞ってこれで行くしかないのか、というところを見つけないといけな。あくまでも今回は「取り扱いの方針」ということで、これはこれで定めさせていただきたいが、それで行くとこういう矛盾が起きるといようなお話も含め、付帯意見も付けて提出していただきたい。私どもとしてもオルターティブの中で何ができるか、考えてみたい。とにかく一つの考え方で簡単にはいかないと思うので、とりあえず「取り扱いの方針」みたいなものがないと、まとまらないだろうということで用意した。しかし、必ずしもそれに縛られて違った変な答えが出てしまうのも良くないので、そういった感じをお願いしたい。

部 会 長 今の事務局の話は、要は4の所。5を見る前に、前のページの、オモテ側の2と3の所を見るべきだということを、別な言い方で言った。

一つは「クスノキの状態とその対処方法」とあり、クスノキの取り扱いを決める手段ということで、1・2・3として、今日はどちらかといこの流れの中で2の作業をやったということ。あとは生育に関してはいろいろな総合判断があるかもしれないが、5の部分の生育の不良かどうかを判定した。そこまで資料を揃えて、なおかつ2・3の観点を入れて最終的な姿、方針を決めたいという流れだと考える。そういう理解でよろしいか。

事 務 局 はい。

部 会 長 となると2・3に関して、特に2のことかもしれないが、皆様先ほどお話になったような、「こういう観点もあるよ」ということ積極的に表につけて出していただく、そういうことでいいのかなと思うが、それでよろしいか。

事 務 局 はい。

部 会 長 皆様もよろしいか。

部 会 員 今日、クスノキを見せてもらったが、土塁上の景観を考えるにあたって、クスノキだけではないと思う。クスノキと旭丘高校との間の樹林も含めて、遮蔽効果がある。それらも遮蔽の役割を担っているわけで、それらも含めて考えていくべき。今日は見る余裕がなかったが、例えば40～59あたりま

では、クスノキだけのことを考えればいいかもしれないし、80～100番代は、そっち側の高校側の樹林との関係も考えると、扱いが変わってくることもあるかもしれない。ということで、どうしたものかと。やはり手順としては、この部会の中でどういう景観を目指していくのかという、大雑把にでも目指していくところが何かないと、なんとも。例えば高さをどのくらいにするのかとか。

事務局 これも前回、表側のところをご説明する中でおおよその方向性といったことは説明している。まず、一番目「取り扱い方針(案)」の表側で現状の評価ということで、一番で問題点、評価点を抽出させていただいた。それに基づいて二番目として「望まれるクスノキの状態」というようなことを述べさせていただいた。それで、どういうゾーンにするかということでは、現状では遺構に非常な負担が掛かっている部分、市街地側への遮蔽効果、この両方を目指して手を加えても、多少強剪定をかけたりして景観はいったん落ちるけれど五年十年経ったら、今よりも樹高が若干下がるものの、ほぼ同程度の樹高を形成するイメージを一つの到達点にしよう、というようにさせていただいた。そうした時に、今日現地をご覧いただく時にお使いいただいた平面図と横から見た写真の図だが、写真の方に高校側に隠れてある常緑樹の範囲についても記入した。背後の常緑樹のあり方を、このクスノキを見ていくときにある程度利用できるという見通しのもと、資料の中に加えさせていただいている。だから、逆の手立ても考えられるかもしれない。常緑樹の側に新たな補植を行う方法も、クスノキのあり方を決めていく中でご提案していただくという案もあるのではないかと考える。前回こういったことで、一応そういった目標像を示した上で、ではクスノキをどうするか、議論に入らせていただいた。

部会員 今現在の高さはどういうことになっているのか。

事務局 前回ご説明したときに口頭で申し上げたのだが。このクスノキの写真の中の西のグループと東のグループの間に谷になるところがある。およそこの谷になるところあたりまでの高さでしたら天守閣の上の展望台から見ても、学校が隠れるくらいは確保できるということは確認できた。またU-meテラスとか小田原駅側からいろいろ見てみても、手前方の学校の校舎に隠れて、このクスノキは見えない。ですので主に高さの視点、遮蔽効果について考えた時に、マックスで下げられるのはこのクスノキの一番低いところ、ここまですら遮蔽効果を保てる。だからと言って全部やる必要はないが、やはり限界はここまでというふうに考えている。

事務局 この図の92番あたりのクスノキの上あたり。

部会員 「北東土塁の取り扱い」についての私の見解ですが、北東土塁については、

今回は仮の整備だという点と、その上にあった三棟の蔵についても、復原するのではなく表面表示にしたいということだから、私はクスノキの生育に悪影響を与える樹木については除去というのは考えてもいいと思うが、観覧席を取り除いたあの風景を見ると、非常に趣があって、コンクリートを取り除いた後には、緑の豊かな樹幹がすばらしいという感想を持った。そういう点で、クスノキの成長に問題のある樹木を除去する。本格的に、何十年か先の話になると思うが、もし整備をすることがあれば、その時その時点で市民の判断を仰いで結論を出せば良いのではないかと。いたずらに、遺跡に影響を与えているという理由で、伐採、抜根をした場合、そちらの方がかえって遺跡を触ってしまうのではないかと私はそう感じる。仮整備なら、樹幹を残す方向で現在は考えておけばいいのではないかと、と私はそう考える。

部 会 員 木の高さの考え方が、あのように移植されて樹木同士競合して一生懸命隣の木を越して、上へ上へと競合してこういう形になってしまったわけで、それをコントロールする場合に、単にこの高さで全体を抑えようという考え方ではなくて、ある程度デコボコしていたほうが、私は自然樹林のあり方としては好ましいと思う。木の状態によって「この木はもう少し抑えられる」とか「この木は軽くしておいた方がいい」とかそういう判断をしながらコントロールをしたら、林全体があるリズムが出ていいと思う。

部 会 長 以前も、最後の判断はそういうことで、引いてみて形を考えるような議論していたような記憶がある。今部会員が言ったことはそれを踏まえて、そうあるべきという話をしたと。

あと皆さんのご意見も他にあると思うが。要は「北東土塁のクスノキ」となっているが、クスノキだけではないということがここに加えるべきことの一つかなと。要は番号がついているクスノキを主体にここで考えるなら、取り扱い方針の中の例えば2のところの1・2・3・4とありますが、5番目くらいにクスノキだけではなく、そういうビジョンも含めていろんな判断が必要であるというような項目を入れておく必要があるよう。もう一つは「クスノキの取り扱いを決める手順」として、「遺構への影響が大きいと考えられるクスノキの選定」というのがあって、それを全部仮に伐採するとしたら相当すごい大がかりになって、旭丘高校の建物が極論を言えば丸見えに近い状態になるわけで、それがまたいいとも正直思えないところがある。遮蔽効果という点もある。おそらくこの「取り扱い方針」の4は、遺構への影響が大きいクスノキとするが、それをどう扱うかは元へ戻って、特に2の観点で判断するというふうにする方がこの問題が解決するような気がするが、いかがか。

あとはもう一つ。先ほども部会員が言われたことだが、整備の程度の問題。

今回の整備の中でどれくらいの目標を立てるか。それは樹高の問題というよりはむしろ遺構ないし蔵を同表現するかにかかわっているのだから、もし仮整備にしてもどうするかに、大きく影響があるものは場合によってはダメということもあるかもしれないという解釈をするのかな、と私は勝手に思っている。そのあたりについてもご意見がおりか。

部 会 員 蔵の位置の仮表示といっても、どの程度に、全部きっちり出さなきゃいけないのか、あるいは現在ある既存木のところで一応止めて、また離れたところからと、その程度のことでもいいのか、私では判断がわかりません。

事 務 局 今の話で、平面表示が仮整備という言い方があったが、必ずしも復原が本整備で、平面表示が仮整備ということではない。一応今回行う整備は平面表示、という理解でお願いしたい。それともう一点、整備、櫓を建てるなら木を切るのはやむを得ないという話もあったが、整備委員会の先生方からいただいた意見は、整備するしないではなくて、ここにある遺構を損ねてしまっただけとはいけない、というご意見もいただいた。そういう先生もいる。「緑が大事な皆さんからすれば私の意見は非常に冷たく聞こえるだろうけども、やはりここは遺構を守っていかなくてはいけない場所である。だから今直ちにではないけれど時間をかけてでもやはり遺構にあるところの木は徐々になくしていかなくてはいけないのではないか。」そういうおっしゃり方をしていた先生がいた。「その代わりに、そこがなくなって終わりか、ということではない。もし遮蔽効果ということがあるなら、別の所に遮蔽の効果を生むこと、手立てをしていく。ということでだんだん史跡の外のほうにそういったものを持っていく、そういうふうにしていってやらないと、遺構は傷んでいってなくなっていく」というおっしゃり方もしていた。私は非常に厳しいなと思いつつも、いいヒントをいただけたのではないかと思った。今のこともヒントにして私どもの方も案を考えていこうと思っている。以上です。

部 会 長 これは私が言い忘れていたかもしれませんが、4の所で遺構への影響が大きいかとして、今後のことを考えてかなり進行した場合に取り返しがつかなくなる。その判断も難しいですが、そういうことは当然ありうる話であって、その場合は遺構の保護もかなり前に出してくる可能性もあるということは考えておかないといけないと思う。そういうことも含めて取り扱いを決める手順の中に、いろんな総合判断も含めて、そういう中で考えていくのだということが明確になっていけば、この方針を承認するということがいいと思う。現実にはどれをどうするか、ということに対しては時間がかかる難しい判断なので、ある種の案を作りながらこの場で示して、ご意見をいただいて決めていくというプロセスになると思う。このことも含めて事務局に修正していただくことになると思う。こういう方向で、この方針は今日のこの段階で、議

論は一応終わりとし、現実的な議論を次にやっていくことになるのかなと思う。

部 会 員　これは一番つらい。特に遺構に集中して密集林、大木の密林ができてしまった、こういう結果だ。これは切るにせよ残すにせよ、どっちに転んでもつらい思いをしないとイケない作業だと思う。城跡整備という一つの任務を負っているのであれば、遺構をいかにこれ以上損壊させずに後世に伝えていくかというのが第一義的な使命ですから、これはご理解いただきたい。これを実施するにあたって、実際に段階的のどういう対応が可能なのか、段階的な対処にあたって、植生の景観をうまく維持していくのか。これは技術的にも難しい話だと思う。枝下しにしても伐採にしても、いずれにしても実際に作業をすれば、頭初は目も当てられないぐらいの惨状になることは覚悟しないとイケないと思う。時間をかけて次の形を生育していくというところへ目を向けながら、冷静に対処して、何が一番いい方法か、周辺植栽の生育にも無理なく次の作業に移行していけるのか、この辺の段取りを考える必要がある。全体的に冷静に仕事の段取りを組み、信頼関係の中で次の整形に移る。そういう共通認識を持たないとなかなかできない。思い切るべきところはある程度思い切らないと、実際には次の手立てが講じられないことがまま生ずる。最終的には、私は遺構上のクスノキは全部除去して、別のところで新たな遮蔽効果のある植栽を育成するという方向性になろう。これは一定の時間をかけていくことになるが、そのぐらいの覚悟を前提にして臨んでいかないと、実際の作業はなかなか進みにくいという印象ですね。

部 会 員　細かいことだが、御用米曲輪の平面部分のことと関係するのですが、今ここに傾いた形で木がある。それを判断する時に、あそこの平面部分はたぶん緑陰という形で憩いの場になる可能性があるが、この平面部分の関係も将来木が育っていったらどうするか考慮しないとイケない。

部 会 長　今の部会員のお話は、前回私もここは5年10年かかって、ひよっとすると20年30年を想定しないと、この問題はいい答えがみつからないかなと正直思う。木は仮にどのぐらいの木を植えるかにもよるが、植栽の問題は、少しロングスパンで考えない限り答えはでない。

部 会 員　ここのスペース（土塁上）は幅が狭いから、新しく脇に植えるってわけにはいかない。そうすると城内からのことを考えると、今ある土塁の手前にマウンドを作って、下に遺構が残っているなら傷めないように、その上にかんりの土盛りをして、そこに将来のために木を植えるという方法しかないのでは。

部 会 長　手前か後ろかという議論はある。

部 会 員　その点だが、新しく植えなくても、この背後に常緑樹だけではなく、落葉

樹のムクの木とかエノキとかが結構あったので、私はこれを活かしたい。確かに今、こうやって見るとクスノキがずっと並んでいるのは統一感があってきれいに見えるが、クスノキ一色では変化もない。やはりいろんな生き物が来るという点では、落葉樹なども混ぜていきたい。あえて植えなくても背後にあるわけだし、これも合わせて考えていきたい。

部会長 その点は私も申し上げた2のところの、クスノキだけではなくて総合的に樹種も含めて考えましょうというのも入れて、進め方のポイントにすればいいと思う。現実には相当難しい判断をすることになると思うが。

部会員 考えれば考えるほど難しい。先に部会員が傾いた木が緑陰になると言ったが、その限りではそうだが傾いた木自体が危険樹になる可能性がある。そこにベンチを置いて、何かあった時にだれが責任をとるのか。緑陰にはもっと平面の安全なところに枝張りのいい木を植えて、条件をセットしてあげた方がいい。このような問題は、どの程度までクスノキが整理できるか覚悟を決めて整理してみて、問題があればそこを補充するにはどういう補足整備をしていったらいいか、これは景観を検討しながら対話的に作業をしていかないと、次の世界を作りにくいだろうと思う。シミュレーションである程度はできるかもしれないが。まずはクスノキの整理の第一段階として肚を決めて、どこまで効果的な整理ができるかという計画を出して、そこから次への展開を考えていく、ということじゃないか現実的には。

部会員 いろんな方法がある。緑地が史跡で補えなければ、背後を利用する、あるいは手前をと。いろんな意見がありますから、それを判定の所に各番号が付いた木をどうするかということと、いろんな要素を加味した意見を各自で出していただいて、それを事務局の方でどんな意見が寄ってきているのかということでもう一回議論を重ねた方がいいと思う。個別の意見をいくら言っても、皆さん専門家だからいろんな意見が出るのできりがいい。

部会長 この表に関しては、事務局としては3月中に回収したいという話がある。要はそこに、それぞれのご意見を出していただいて、それを踏まえて私が申し上げたこともあるが、取り扱い方針の案をとる作業につなげたい。いつまでも案がとれないので、事務局も困っている。かなり大事な論点が出ているので、そういう扱いにさせていただきたい。事務局もそれでよろしいか。

事務局 はい。

部会員 基本的には、リミットはいつ頃にしたいという希望があるのか。

事務局 事務局としては前回お話しさせていただいたが、来年度4回の開催を考えている中で、1回目を5月くらいに開催したいと思っている。クスノキの取り扱いについては、平成25年度の予算編成の段階でうまく反映させられるのがベストなので、そういったことを考えると夏前の第2回くらいでは結論

を出せないかと思っている。その流れということなら、3月末でなくても多少ともゆとりはとれるのではないかと思う。大切なことなので、あまりバタバタやって悔いを残すようなことにはしたくない。その程度くらいの後ろを意識していただければと思う。

部 会 長 具体的に表の回収はいつまでにすればいいか、決めて下さい。

事 務 局 4月10日までにご返事を。

部 会 長 ということで、この点はよろしいか。

部 会 員 今見せてもらって、特に西側部分は先ほどから話に出ているが、大変に絡んでいる。私は植物のことはわからないから評価できない。今まではスタンドがあって、スタンドが固めているから、上の木が揺れることが少なかったという部分もあるのではないか。除去してしまった。先ほど現地で確認したら土塁は半分くらいが新しい、ということになってくると、あのままの形で特に1号から西側を残しておくで強風でかなり木がゆすられるのではないかと。となると、一番大切な遺構がその度にゆるんでいくのではないかという不安がある。今、事務局から25年度から予算がという話があったが、少なくとも木がゆすれないような枝下しとか、その辺はできるだけ早く対応した方がいいのではないか。この辺はどうですかね。

部 会 員 おっしゃる通り。

部 会 員 ただ一応群として存在する。今は枝がないが、この夏までにでると思う。枝を出すことによって、風速がそうとう軽減される。単木ではなく群としてあるから、思ったほどは根は揺すられない。菰が巻いてありますから、実際の根の状態がどうなっているのか今日の段階ではわからない。支持根といわれる元の根がしっかりしていれば問題はないが、弱っていて後から生えた根で持っているとなると、ちょっと揺れが大きいと。その点だけが私は心配。

部 会 長 そのへんはちょっと事務局にも実際を見ていただいて、必要な対応をとる準備を場合によってはすると、お考えいただく。その方向で検討していただくと言うしか今日の所はないと思う。ぜひお願いしたい、ということよろしいか。

事 務 局 はい、承知した。

部 会 員 下方植生の方がすごく気になる。今のままだと完全に乾いている。多少養生はしてくださっているが、できるだけ早い時期に、下方植生なり補植をできるようにしていただきたい。

部 会 長 よろしいでしょうか、その点も。

事 務 局 はい。

部 会 長 急ぐことは、前倒しでもやってほしいということが何点か出ているということで。だいたい今日議論する点は一応出た。他に何かあるか。「その他」と

いうのはなにか。

事務局 「その他」として、先日の雪の被害で枝が落ちたようなところがあり、それについての状況を観光課の方から説明していただきたい。

観光課 表題の通りだが、2月29日の着雪で本丸広場の樹木の枝が何本か折れた。そちらの報告をさせていただく。それについては、翌日3月1日に折れた枝は取り除き、修景もさせていただいているので、ご承知おきいただきたい。

図の中だが、本丸広場の番号の若い方から見ると、Aの54番のクロマツ。常盤門小田原城ミュージアの目の前のクロマツの枝が1本、折れた。高さ10mくらいの所だったのだが、これは枝が落ちた状態だったので片づけている。続いてAの66番、ちょうど南側のトイレの目の前あたりのクスなのだが、枝が3本着雪により折れたので、根元から高所作業車を使い修景させていただいた。天守閣目の前の竹囲いの中にあるAの70番、アカマツの枝が2本折れた。こちらも10mの高所作業車を使い枝2本を取り除いている。続いてA72番。マツだが、これも枝一本、高さ10m前後のところだが、1本取り除いた。それからAの74番アカマツ。これも約10mのところ、裂けた状態でひっかかってしまったので、こちらも枝の根元から切り、修景させていただいた。それからAの97番。本丸茶屋のちょうど屋根の上あたりのクスの枝が、屋根にのった形になっていた。こちらも一本折れた部分から取り除いた。それから、梅林駐車場と言っています、清閑亭方面のウメの木2本、これも枝が1本ずつ折れていましたので、折れた部分の根元から切りまして、片づけさせていただきました。以上である。

部会長 この件に関して、何かあるか。

部会員 ちょっとそれに付け加えて言いますと、この前の雪折れの被害の結果だと思うが、私が天守閣裏、ちょうど黒々と茂ったシラカシの下を通った時に、上から元枝の直径が6～7cm、長さ3mくらいの枝が落ちてきた。たまたま二股に分かれていて、私はちょうど間に入った。直撃を受けたらここで部会の皆さんとこうしてお会いできたかどうか、きわどいところでした。予測がつかない状態なので怖いことだ。上を見たら、同じくらいの大きな枝が折れて、今は枯れた状態で葉の茂みにひっかかっている。折れた当初は葉がグリーンだからわからないと思う。高木の類の密生した枝というのは、やはりある程度、日ごろから管理して梳いて見えるような格好にしておかないと大変危険だろうと思う。子供連れの家族やお年寄りが通った時には大変なことになる。高木に対する日ごろの枝整理の管理は、きちんとやっていかなければならない、そういう時期に来ていると思う。

部 会 長 他にご意見がなければ。やはり管理に関するある種のルールなり基準なりが必要だと改めて感じる。これは前にも申し上げたことだが、もう一度基本的な基準なり、方針について固めた方がいい。これも前から言っていてなかなか進まないが、少し皆さんのご協力をいただいて、それも表に出していくようなことにする必要がある。それを事務局とご相談させてほしい。そういうことでよろしいか。

それでは今日の話は、城址公園全体の植栽管理についてということで、いろいろご意見があった。やはり全体像を考えながら植栽専門部会として到達すべきゴールを想定しながら、いろんな議論を積み上げていって、一つのまとめをしていく必要があるだろう。それにあたっては皆さんにそれぞれの考え方を改めて整理をして提示していただくようなことがあるかと思う。事務局の方といろいろ話をしていると、鈴木崇委員と観光課といろんなモデル的なことをやってみようとか、仮に場所を決めてスタディをやってみようという話も進められているように伺ったので、それを表に出して一つの手がかりにしてそれぞれの委員の方のプランを議論していくような形に持っていければいいのかなと改めて思う。全体は、特に毎木調査の成果とかもあるので、過去の古写真の分析というようなこともある程度進んでいると伺っているので、そういうものをご提示していただいて、この部会報告に提示していただいて、なおかつ今後の取り組み、各委員の提案も含めて、どんな作業計画で今後やっていくかということ、大変でしょうが事務局の方でまとめて、できれば次回出していただきたい、ということをお願いしたい。それを一つのまとめにしたい。さきほどの、なんとか八景、小田原八景、小田原城八景ですか、そういうことも伺ってみたいし、それが城址公園全体のこと。

次に御用米曲輪に関しては、先ほど申し上げたように表をまとめようと思っただけ事務局で用意されたが、少し全体を見直さなければならないところがあって、それに関してはこの表の評価と、方針に関して見直すべき点ないし加える点を、各委員のほうから4月10日までに出していただくことをお願いして、その成果をもって最終的な方針を確定したい。8月というタイムリミットがあるから、あまりゆっくりはしてられない。来年度第1回の部会で提示していただきたい。

3つ目は通常の管理ということに関しても、一定の基準なり、ある種の手続き的なことはすぐ決めた方がいい。前からも申し上げていることだが、これについてもご相談をしながら、多少私なりのイメージもありますし、皆さんにも意見があるでしょうから、そういうものを聞き出して、ある種の案・方針にしたいと思う。それも来年度の大きなテーマにしたい。以上ですが、よろしいか。

部 会 員　　ちょっと確認。表の書き方だが、先ほど会長さんがクスノキの生育状態は専門家という話があった。その辺には触れなくて、外して回答していいのか。

部 会 長　　私は判断を求められても困るところが正直ある。この項目の中で、例えば、枝の傾斜状況等、はマルがつくのですが、それ以上もう少し難しい判断になると何をもってやるか、私はちょっと判断がつかなくて、それならば専門のある程度判断ができる方に任せればいいのかと思うわけですが。

部 会 員　　私もそう思う。

部 会 長　　それしかないと思うが。

事 務 局　　確かに皆さん自分のご専門のところと、そうでないところがあって、全部をきちんと等しく書き込めないというところがあると思う。それはあまり気になさらないで、緑は詳しくないけれどこの木の樹形は好きだ、とかそういうのがあったらお書き込みいただいてもいいのではないかと。

部 会 長　　それならよくわかる。

事 務 局　　専門でなければ敢えてお書きいただかなくても、書きたくないかたは書かなくてもいいが、私はこの木は大事だと思うとか、この木はもうほとんど枯れているようだとか、こういうのはいいのではないかとというのがあればお書きくださって結構だと思う。

部 会 長　　ということでよろしいか。最後、事務局。

事 務 局　　すでに委員の各部会員の方には、前回の部会の議事録の案をお送りしている。そちらの方に目を通していただいて、校正の方を、こちらは3月いっぱいくらいに頂けるとありがたい。

部 会 長　　それでは皆さんよろしく。議事はここまで。

事 務 局　　本日はお忙しい中、長時間にわたり熱心にご議論いただき感謝する。事務局にもいくつか宿題をいただいたが、次回に向けて資料等を整理していきたいと思う。皆様にもいろいろ、お送りいただく評価表もあるので、よろしくお願ひしたい。それでは本日はどうもありがとうございました。